

令和 3 年度埼玉県障害者施策推進協議会
第 1 回ワーキングチーム（C チーム）会議メモ

令和 3 年 7 月 1 0 日（水）10:00-11:45

埼玉会館 4C 会議室

参加者：大島委員（リーダー）、長岡委員、小野寺委員、福島委員、續委員、
羽生田委員

他チーム参加者：なし

欠 席：なし

傍聴者：2 名

次第 1 委員自己紹介

各委員から自己紹介を行った。

次第 2 ワーキングチームサブリーダーの選出について

大島委員より 2 期目である長岡委員または小野寺委員の推薦があり、他メンバーからも異議がなく、長岡委員をサブリーダーに決定した。

次第 3 令和 3 年度のワーキングチームの進め方について

大島委員)

「共に育ち、共に学ぶ教育の推進」および「安心・安全な環境整備の推進」が検討課題となっている。範囲が広いが、全体をカバーするような形で議論していくか、「災害」などポイントを絞って重点的に議論していくか。

話し合っているうちに、だんだん広がっていくこともあると思うが、皆様のご意見を伺いたい。

長岡委員)

コロナについては、次期計画のための議論ではあるが、今考えてできることがあれば議論するポイントとして考えても良いのではないだろうか。

- ・ 障害者・障害分野の人に対してコロナワクチン接種が遅れている。
- ・ 障害分野を超えてしまうと立場が弱くなってしまう印象。

大島委員)

感染症対策については、第 6 期計画に新しく入ってきた施策がある。コロナ

ウイルスだけでなく、感染症対策について考えていくべき。

もちろん、今すぐに取り組まなければならないことや現状を踏まえて次にどう生かしていくかなどの視点を取り入れていきたいということである。

感染症に対してポイントを絞って議論したらどうかという意見として承る。

小野寺委員)

前回の計画で多く集まったというパブリックコメントについて総括したい。それをもとに、それぞれの立場から、気になる事例をまとめながら課題を整理していくのが良いと思う。

コロナ（感染症対策）についても考えていくべきだと思う。

- ・自治体裁量になっているため、自治体間でワクチン接種のスピードが違う。
- ・優先接種について、申請も家族任せであったり、周知が足りない。
- ・会場での接種について、合理的配慮が足りない。

→行田市では巡回接種をしてもらえるようになった。

今後、インフルエンザ以外にも継続的にワクチンを接種するようになっていくと思われるため、これからのために、自治体裁量ではなくマニュアル等を用いて進め方を統一したり、巡回接種の体制を整えるなどするべきだと考える。

大島委員)

パブリックコメントについてはワーキングで資料として取り扱っても問題ないか？

事務局)

問題ない。

大島委員)

次回までに皆様にパブリックコメント全体に目を通しておいてもらい、このワーキングに関連しているものをピックアップしてきてもらう、というやり方でどうか。

委員)

承諾

羽生田委員)

パブリックコメントは、印刷して郵送でもらえるとありがたい。

事務局)

郵送する。

大島委員)

パブリックコメントについては新規の委員の方に郵送で送るようお願いする。

まとめると、

- ・パブリックコメントを資料として扱うことが決まった。
- ・コロナウイルスをはじめとした感染症対策について重点的に議論したらどうかという意見が出ている。

小野寺委員)

入所施設に関わっている委員がいるため、「住まいの場の確保」等とも関連するところになるが、入所施設におけるコロナウイルス感染症対策や水害対策についても取り入れたらどうか。

羽生田委員)

コロナウイルス感染症が流行している影響など、暮らしの場や悪環境によって障害者が二次障害を起こしている。

「合理的配慮」の視点からもはやく検査やワクチン接種を受けられる体制を作ることは非常に大切であると思う。

大島委員)

「安心・安全」に関連して住まいについて議論しても良いし、「障害者の地域生活の充実」を担当するBチームに要望して住まいについて検討してもらうこともできるため、どちらも進めていくことが効果的と考える。その方向でどうか。

委員)

承諾

大島委員)

續委員や福島委員は進め方等についてどのように考えているか。

福島委員)

イレギュラーなことが起きたときの対応、支援体制について整えるべきだと考える。

大島委員)

全体を通して、「イレギュラー」なときにどう対応していくか考えていくべきということは良い視点だと思う。

續委員)

「教育の推進」についても議論していきたい。コロナウイルスの影響で、学校行事等がなくなり、学校での関わりが減ってしまった（コロナ禍で教員とあまり話す機会を設けてもらえず…という経験がある。）。

羽生田委員)

教育環境の改善が必要だと考える。パブリックコメントを用いて、現状を知っていくべき。

①国は、特別支援学校について、新しくできる学校に設置基準を設けようと考えている。新しくできる学校はいくつあるのか？

②しかし、既存校については努力義務ということである。県として設置基準（通学時間・規模など）をどう考えているのか？

③高等部では、軽度知的障害や発達障害の生徒が増えている。そのような生徒に対する今後の特別教育の在り方は？

④③の現状があり、重度障害者が手厚い教育を受けられなくなっている問題について

上記について考えていきたい。

大島委員)

県の担当課所の方に来てもらったり、データをもらったりすることもできるため、県としてどう考えているかなどを伺うことができると思う。

また、特別支援学校に生徒が増えている現状は、小学校や中学校もだと思う。今後のことも見据えていくうえで、良い視点と考える。

今までの話の流れから、ポイントを絞って検討課題を形にしていくという進め方で良いか。

委員)

承諾

大島委員)

施策によって担当する課が異なるため、話を聞きたい担当課などの意見も聞きたい。そういうことはできるか。

事務局)

必ず希望の担当課が出席するということは難しい。

聞きたいことを明確にしてもらえれば、データ等を用意することはできる。

次第4 ワーキングチームの検討課題について

小野寺委員)

69ページ「インクルーシブ教育システム」について、どのようにインクルーシブ教育システムを構築しているのか教えていただきたい。

①障害児に対するいじめや教員の理解不足がまだ絶えず、どのように学校の中での差別解消を行っているのか。

②施策番号201中の「研修」、202中の「初任者研修」「年次研修」について、どのような研修を行っているのか。研修については、進路指導が足りず、卒業後のフォローなどもないという現状がある。

大島委員)

これは、特別支援教育課が担当課か？

小野寺委員)

施策番号201の場合、特別支援教育課は含まれていない。また、小中学校については、管轄が市町村になる。

羽生田委員)

特別支援学校の課題がこの施策からは見えてこない。どのへんから見えてくるか。

大島委員)

この施策の中では全体をカバーしているわけではなく、障害の視点からの施策に過ぎないと思うため、全体が見えてこないのは仕方がないと思う。

具体的に、「研修」や「設備」について現状や方向性を考えて、施策にあげていくべきことを提案していくことはできると思う。

羽生田委員)

71 ページ、施策番号 216 中「児童生徒増に対応するため」について、特別支援教育課にどのような状況なのか説明してほしい。

大島委員)

義務教育指導課とかよりも、特別支援教育課の方にお話を伺うのが良いかと思うがどうか。

事務局)

はい。

大島委員)

教育については、「インクルーシブ教育」「研修」「児童増の現状」「設置基準などの教育環境」について伺えればと思う。

安心安全な環境については、何かあるか。

長岡委員)

複数課で担当している場合、課と課のあいだに垣根があることが問題だと思う。(例 ごみの処理や、福祉避難所についてなど。)

政令市・中核市・県の垣根についても同様に思う。県の施策と市町村の施策がどうリンクしているのかなども気になっている点である。

特に防災の取組において重要であると思う。

また、災害時においては、地域の関係者とも連携していくべき。

大島委員)

施策の中で、連携しているところや担当課の管轄範囲を見つけていくことが必要だということだと思う。

小野寺委員)

73 ページ(1) 地域療育・相談体制などの整備は、教育の「発達障害児者の支援」に繋がってくると思う。75 ページ、施策番号 235、238、239 も先ほどの教育について求めることに繋がってくる。そして、もっと具体的に県民の人に伝えていくべきだし、教育の施策にも入れていくべきだと思う。

大島委員)

ほかに必要だと思う論点はあるか？

羽生田委員)

コロナウイルス感染症の中で感じたことだが、医療において障害者への配慮をもっとするべき。災害時の避難においても同じことが言えると思う。

大島委員)

77ページの(3)保健・医療体制の充実の中に入ると思う。緊急時も平時も必要な支援が受けられるように、という視点。

羽生田委員)

どこに入るか決めるのが難しい。

小野寺委員)

障害のある人が安心して医療を受けられる体制が整っていないということが実態だ。

長岡委員)

災害時等、ヘルパーを利用することができなくなることもある。そういう現状などを共有する機会もないなと感じる。

大島委員)

それぞれ、どこの施策に該当するかなどは、次回に話すということにする。それぞれ確認してくるということでお願いしたい。

次第5 その他

事務局)

ワーキングチームは年3回を予定している。9月には第2回本会議があり、今回のワーキングチームで決まったことをリーダーより報告していただく。その後、第2回が11月、第3回が1月に行われ、第3回本会議にて今年度の報告をしていただく。